

令和2年度木材研究所試験研究成果発表会

富山県農林水産総合技術センター木材研究所では、最新の試験研究成果の中から2課題を選び、下記のとおり発表会を開催します。

また、特別講演（富山県森林・木材研究所振興協議会との共催）も併せて開催しますので、ご案内申し上げます。

開 概	催 要	日時	令和2年10月14日（水）13：30～16：30
		会場	富山県民会館401号室（富山市新総曲輪4番18号）
		主催	富山県農林水産総合技術センター、富山県森林・木材研究所振興協議会

内 容	時間	試験研究成果発表会	
	13:45～14:15	『タテヤマスギ大径材の構造利用技術の開発』 木材研究所 木質構造課 副主幹研究員 橋本 彰	
	14:20～14:50	『微粉碎技術を応用した木質高機能膜の形成に関する研究』 木材研究所 木質製品課 課 長 藤澤 泰士	
	時間	特 別 講 演	
	15:00～16:30	『林業と林産業の情報共有を活用した サプライチェーンの構築について』 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場 利用部 資源・システムG 研究主幹 石川 佳生 氏	

※発表の要旨は裏面をご覧ください。

定員等	定員75名（先着順）、参加無料
-----	-----------------

申込方法	参加申込書にご記入のうえ、 10月7日（水） までに富山県農林水産総合技術センター木材研究所あてにFAXでお申込みください。
------	---

申込先	富山県農林水産総合技術センター木材研究所（〒939-0311 射水市黒河新4940） 担当：成田 TEL:0766-56-2915 FAX:0766-56-2816
-----	---

そ の 他	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
	① 次の事項に該当する方は、出席をお控えいただきますようお願いします。 ・直近2週間の海外渡航歴のある方、又は国内の感染流行地域への旅行・出張をされた方及びその方と濃厚接触のあった方 ・基礎疾患をお持ちで感染リスクを心配される方 ・発熱や風邪症状がみられる方
	② マスクの着用をお願いします。 ③ 会場入り口に設置する消毒液で手指を消毒のうえ、入室をお願いいたします。

『令和2年度木材研究所試験研究成果発表会』参加申込書 **FAX：0766-56-2816**

御所属			
参加者	部署名	御役職	ご氏名
	部署名	御役職	ご氏名
	部署名	御役職	ご氏名
	部署名	御役職	ご氏名
連絡先	ご住所		
電 話	() -	FAX	() -

※ご記入いただいた情報は、当発表会実施に係る業務以外での使用はいたしません。

成果発表及び講演の概要

成果発表① (13:45~14:15)

発表課題	タテヤマスギ大径材の構造利用技術の開発
発表者	木材研究所 木質構造課 副主幹研究員 橋本 彰
発表要旨	<p>県内のスギ人工林は高齢級化が進み、主要品種であるタテヤマスギにおいても大径材の供給増加が見込まれています。</p> <p>木材研究所ではこれまで、大径化したボカスギについて、原木の品質評価方法、や心去り平角材の生産技術の開発とともに、長スパン構造に対応した部材開発にも取り組んできました。これらの知見をもとに、平成30年度からはタテヤマスギ大径材を対象に、木造住宅への利用拡大と公共建築物での需要開拓を目標として取り組みを進めています。</p> <p>本発表では、心去り平角材の乾燥特性、曲げ強度性能を中心に、これまでに得られた結果を報告します。</p>

成果発表② (14:20~14:50)

発表課題	微粉碎技術を応用した木質高機能膜の形成に関する研究
発表者	木材研究所 木質製品課 課長 藤澤 泰士
発表要旨	<p>近年、木質材料の市場においては、木材パルプのセルロースをナノオーダー（1,000分の1ミリ未満）まで微粉碎し、材料の補強剤や保湿剤などに活用するセルロースナノファイバー（CNF）技術が注目されています。</p> <p>木材研究所では、富山県産業技術研究開発センターと共同で、このCNF化を応用して、木材パルプではなく、スギ木粉と水のみを原料に製造する木質塗料を開発しました。</p> <p>この木質塗料から形成した木質膜は、木材由来の構造による断熱性と造膜性に優れており、暑熱対策用の塗料や被覆材料などの高機能塗膜として利用可能であること、さらに、意匠的にも独特な風合いがあり、工芸的な応用も期待できることが明らかになりました。</p> <p>本発表では、木質塗料の製造方法と木質膜の主な性能を中心に報告します。</p>

特別講演 (15:00~16:30)

テーマ	林業と林産業の情報共有を活用したサプライチェーンの構築について
講師	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場 利用部 資源・システムG 研究主幹 石川 佳生 氏
講演要旨	<p>現在、全国的に地域材の需要拡大や利用促進に向けた様々な取り組みが行われています。</p> <p>しかし、昨今の経済情勢の変化や流通量の急激な変動により、特に北海道における道産材の調達には、容易な状況ではありません。例えば、製材工場が建築用材向けの道産木材を安定的に調達するためには、一定の発注量や何ヶ月も前からの発注が必要な場合もあります。このような、素材生産者と製材工場、さらには製材工場をはじめとする木材加工工場と工務店等に見られるような生産者と需要者の需給バランスのミスマッチを解消するための方策として、情報の共有化が考えられます。</p> <p>今回は、道総研林産試験場が木材の情報を共有するための仕組みを活用して作成した“木材サプライチェーンを構築するためのシステム”や“木材を使いやすくするためのツール”等をご紹介します。</p>